

校長室だより		令和6年4月10日発行
<b>共学共高</b>	第	発行責任者
	62	白梅学園高等学校長
	号	武内 彰

## 61期生を迎えて

4月9日(火)、数年ぶりに本校のグラウンドの桜が満開の状態、第61回入学式を挙行了。生憎の雨で、真新しい制服に雨滴がついてしまった新入生も多く見受けられたが、希望を胸に登校してくれたに違いない。

新入生にとっては、これまでと環境が変わり、不安を抱える部分もあるだろうが、4月10日(水)のガイダンスの様子を見ると、すでに打ち解けた友達を見出している生徒も多いようだ。

入学式には多くの保護者の皆様にも御参加いただいた。「入学式」と書かれた看板の前では写真を撮るための行列もできていた。心から「ようこそ、白梅学園へ」とお伝えしたい。

保護者の皆様が大切に育てられたお嬢様をお預かりして、本校での教育活動が始まっている。この出会いを大切に、これからの三年間で大きく成長してもらえよう、支援していく覚悟である。

多感な青年期にあたる高校時代は、大人へと成長していく時期にある。保護者・教職員・卒業生・地域の関係機関といった周囲の大人たちのサポートを得ながら、人格の基盤を確立する時期である。本校の特色の一つでもある、「面倒見の良さ」を発揮しながらも、卒業時には「自立した女性」として旅立っていけるようになってほしいものだ。

本校は女子高である。そこには、共学とは異なる良さもある。特に、リーダーシップを発揮する場は、共学よりも多く存在する。中学校の時にはそうした経験がなくても、本校でリーダーとしての役割を担い、自信を付け、自己肯定感を高めていく生徒たちを多く見てきた。また、穏やかで優しい雰囲気の中だから安心して生活できる、そうした実感をもつ生徒も多く存在する。こういう環境だから自分を成長させることができた、と振り返る卒業生の声も多く届く。一人一人の生徒たちに、先に生きる者(先生)としての温かなまなざしをもって生徒たちに寄り添い、向き合っていきたいものだ。

61期生を迎えて、60期生・59期生と共に、生徒たちの笑顔と輝く姿がいたるところで見られる学校づくりを進めていく。



4月10日のガイダンスの様子



4月10日時点でのグラウンドの桜

(共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す)